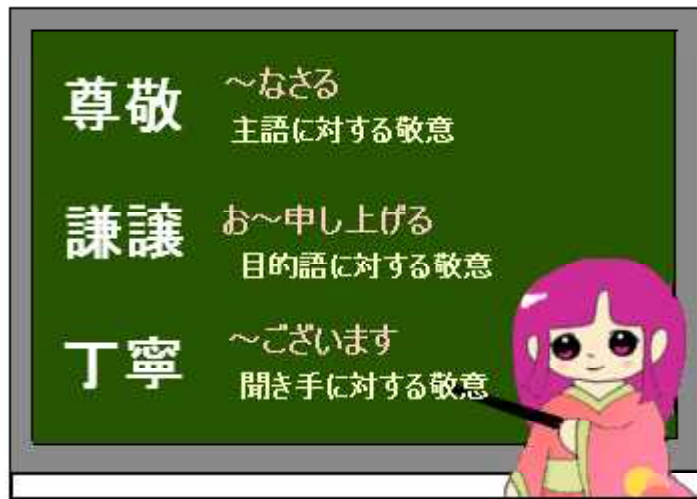


「敬語」

- 尊敬語
…主体・動作主・主語へ敬意を表す語
(～が)
- 謙讓語
…客体・目的語へ敬意を表す語
(～に、を)
- 丁寧語
…読み手や聞き手(対者)へ敬意を表す語



「本動詞と補助動詞」

「テレビを見る。」

「試してみる。」

どちらの文にも「見る(みる)」が使われていますが、下の文中の「みる」には、本来の「見る」という意味はありません。

補助動詞と通常の動詞を見分けるポイントは以下の3つ

- ・補助動詞は「て(で)」に続く形で使われる
- ・補助動詞はひらがなで表記するのが一般的
- ・補助動詞は単体では述語にならない(意味が通じない)

また、以下のような補助形容詞もあるので参考までに

《ない》

「私は運動をしたくない。」

《ほしい》

「彼にはもっと頑張ってほしい。」

○敬意の方向

(誰から)
地の文・・・ 作者から
会話文・・・ 話し手から

(誰へ)
尊敬語・・・主体へ(～が)
謙譲語・・・客体へ(～に、を)
丁寧語・・・読み手・聞き手(対者)へ

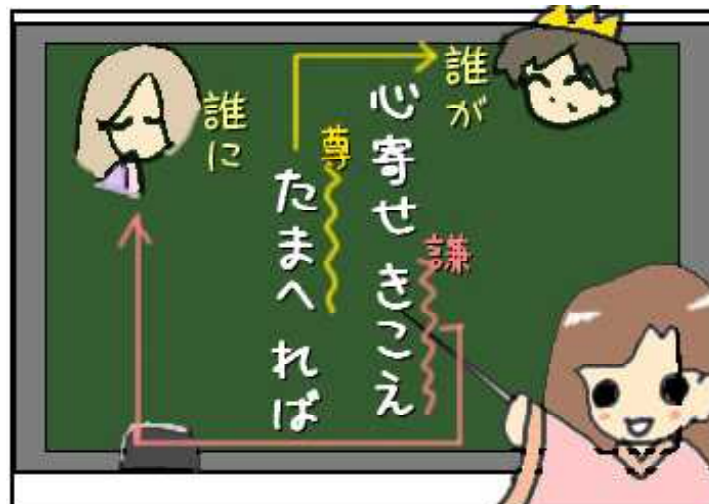


「二方面への敬意」について

「みな、おぼつかなからずうけたまはるものを、所狭う思し憚らで、思ひたまへ寄るさまことなる心のほどを、御覧ぜよ」と聞こえたまへど、

- ・「聞こえ」…作者から尼君に対する謙譲語
- ・「たまへ」…作者から光源氏に対する尊敬語

傍線部のように二者に対して敬意を払うことを二方面への敬意と言います。



「あいの国語力 UP 講座」 <https://ameblo.jp/aiaia18/>